

## 平成 25 年度第 2 回 岩手県 N P O 等復興支援事業審査委員会 議事録

日時：平成 25 年 7 月 16 日（火）10：00～12：00

場所：アイーナ 501A

出席者

【委員】株式会社岩手銀行 理事営業統括部長 菊池信弥  
東北税理士会岩手県支部連合会 副会長 工藤重信  
岩手県立大学総合政策学部 教授 倉原宗孝  
特定非営利活動法人やませデザイン会議 理事 田中卓  
紫波町生活部町民課 課長 藤尾智子  
株式会社メガネの松田 代表取締役社長 松田陽二

【事務局】N P O ・文化国際課 参事兼総括課長 松川章／特命課長 佐々木真一  
主任主査 阿部美登利／主査 中村和也

### 1 開会（佐々木特命課長）

### 2 挨拶（松川参事兼総括課長）

本日は、朝早くからご多忙のところ県内各地からお集まりいただき感謝申し上げます。

先日の第 1 回審査委員会では、長時間に渡り「復興支援の担い手の運営力強化実践事業」に係る審査をいただき、申請 54 件のうち 21 件が採択の運びとなっており、内示、補助金交付の準備を進めているところであります。

今回は、「復興支援の担い手の基礎的能力強化事業」ということで、2つの事業について委託事業の委託先を決める審査をしていただきます。委員の皆様には、ご多忙のところ時間を割いて企画提案書に目を通していただき、事前審査をしていただいたところであります。本日の公開プレゼンテーションで最終審査をしていただき、優れた企画提案を選定いただくよう、活発なご議論をお願いします。

本日は、正午までの予定なので、ご協力をいただき、審査をよろしくお願いいたします。

### 3 議事（事務局：佐々木特命課長）

続きまして、次第 3 の議事に移りたいと思いますが、本審査委員会の設置要項第 4 条第 3 項の規定によりまして、委員長は会議の議長ということになっておりますので、以降の進行につきましては倉原委員長をお願いします。

（倉原委員長）

では改めてよろしくお願いします。早速（1）平成 25 年度復興支援の担い手の基礎的能力強化事業の審査について、事務局から説明をお願いします。

（事務局）

資料等により説明（省略）

（倉原委員長）

ありがとうございます。資料のご説明でしたが、ご質問やご意見ある方はお願いします。いかがでしょう。無いようでしたら次に進みたいと思います。

## ◆公開プレゼンテーション

---

(事務局)

本日は、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。只今から、「平成 25 年度復興支援の担い手の基礎的能力強化事業」に係る公開プレゼンテーションを開催いたします。1 事業あたりの持ち時間は、説明 10 分、質疑 5 分の計 15 分です。説明開始から 9 分が経過したところでベルを 1 回鳴らし、10 分経過したところで 2 回鳴らします。ベルが 2 回鳴った際には説明の途中であっても終了して下さい。質疑の場合も同様ですので、円滑な進行にご協力願います。

では、最初に「(1) NPO 等運営力強化事業」についてのプレゼンです。応募者は 1 団体で、NPO 法人シニアパワーいわてさんです。では、説明をお願いします。

### 【シニアパワーいわてによるプレゼンテーション (省略)】

#### 【プレゼン後の質疑】

(藤尾委員)

今回の事業は「復興支援の担い手」という枕詞がついているので長く続く事業ではないかと思うが、震災があってもなくても大切な内容であるので、独自に継続の予定はあるかお聞かせ願いたい。

(シニアパワー)

岡山 NPO センターの HP を拝見しましたら、NPO 法人で働いている人の実力を試す資格試験を検討しているようだ。もう一つは NPO 法人の企業診断、団体の総合力を測る事業を計画しているようで人材育成に力を入れたいということのようだ。さきほど NPO の問題点を 5 つ上げたが、これは本県だけでなく全国的な共通の課題だと思われ、公の行政などが実施すればよいのかとも思うが、私どもだけでは力不足であるので、将来的には例えば沿岸地区のどなたかに役割を担ってほしいとか、一緒にそういった事業をやっていければよいのかなと考えている。

(工藤委員)

去年個別相談会のニーズが結構あったようだが、相談の中で 25 年度実施するにあたって具体的に工夫したい点は？また、見積書の中でシニアパワーとフォーラム 21 の消費税の積算の違いがあるのは何故か。

(シニアパワー)

消費税についてはシニアパワーが非課税団体、フォーラム 21 が課税団体であることから県に相談して次のような記載になったもの。個別相談については、相談が多くフォローもしたが、実際事務所に行って書類を見ないと指導できない面もあったことから、今年度は事後フォローとして訪問も計画にいった。

(事務局)

時間となりましたので以上で終了となります。ありがとうございました。

続いては、「(2) NPO 等寄附募集支援事業」についてのプレゼンです。NPO 法人いわて連携復興センターさんをお願いします。

### 【いわて連携復興センターによるプレゼンテーション (省略)】

## 【プレゼン後の質疑】

(藤尾委員)

事業の成果目標を教えてほしいのと、個人的にはいわて連携復興センターさんが一年間を通して認定NPO法人を習得する基盤を整えてほしいと思うが予定はいかがか。

(連携復興センター)

まだ具体的な成果目標はたてていないが、去年、中間支援NPOがこの委託事業に手を上げられなかったという点に課題を感じていた。今年度は中間支援NPOのネットワークなど得意な部分を活かして、中間支援NPOが主体となって事業を実施できればよいと思っている。

(工藤委員)

SAVE TAKATAの予算書に出てくるサウザンウエーブスさんはどういった関係か？

(SAVE TAKATA)

SAVE TAKATAが被災後に勢いでNPOのことも分からずに団体を設立した際に資金面で援助してくれた民間企業。また、水質保全のプロジェクトを立ち上げる際にも支援してくれた。東京から震災後に大船渡に移り住んで起業された方が経営している株式会社で、地域としても貴重な存在。

(倉原委員長)

復興という状況は認定NPOをとるのにどう左右されると考えるか。バタバタしているから認定などとする状況でないとか、どう考えるか。

(連携復興センター)

1年目2年目は緊急支援の必要性があったが、今後はもっと支援が減って行く。その中で運営していくのにはやはり地域の方の共感や理解を得ることが必要になってくる。こういった中で認定NPO制度は活用できる仕組みである。認定制度は自分達の体制を整理することができるし、認定をとれば外へも発信できる制度である。

(事務局)

時間となりましたので以上で終了となります。審査結果については後日連絡いたします。ありがとうございました。以上でプレゼンテーションの一切を終了します。大変お疲れ様でした。

## 【以下、審査最終協議については非公開】

(倉原委員長)

それでは以上のような結果でまとめることとしてよろしいでしょうか。

ではこれで本日の議題を終了いたします。進行にご協力をいただき、ありがとうございました。

## 4 閉会 (佐々木特命課長)